

## 平成29年度 大阪高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、旧制中学校として創立以来、「知育・徳育・体育の調和のとれた全人教育」を追究すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る      ②進路観を掘り起こし、希望進路の実現を図る  
③学校行事・部活動の充実を図る      ④基本的生活習慣の確立を図る

目指す学校づくりとして

1. 学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望する進路の実現を図る学校
2. 生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心で安全な学校
3. 広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校

### 2 中期的目標

#### 1 学び続ける力の育成

- (1) 学力の向上に取り組む
- (2) 指導力の向上に取り組む

#### 2 問題解決力の育成

- (1) 大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- (2) より一層の生徒会執行部活性化に取り組む
- (3) 部活動の充実を図り、大高への帰属意識を高めることに取り組む
- (4) ルール遵守を基盤に学習集団についての育成に取り組む
- (5) 女子生徒指導のあり方追究に取り組む

#### 3 選択する力の育成

- (1) 進路実現のための学習を乗り越えた幅広い学習に取り組む
- (2) 興味関心を深め、自学自習を楽しむ学習に取り組む
- (3) 社会的・職業的に自立するための学習に取り組む

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成29年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○「自己評価」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全家庭に保護者アンケートを郵送、無記名回答。回収率 99.0%</li> <li>・生徒は2学期期末試験最終日にアンケートを実施。教員がアンケートを配布、回収。</li> </ul> <p>○生徒の肯定的回答上位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高校生に相応しい規律ある生活、マナーを守った集団生活を自分は送れていると思いますか。 肯定評価の割合 76.8%</li> <li>2) 大阪高校のクラブ活動は全体として活発に活動していると思いますか。 肯定評価の割合 72.6%</li> </ol> <p>○生徒の肯定的回答下位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分の将来と結び付けて今なすべきことを考えられるようになりましたか。 肯定評価の割合 64.8%</li> <li>2) 自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか。 肯定評価の割合 52.9%</li> </ol> <p>○保護者の肯定的回答上位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) お子様を本校へ入学させてよかった（知り合い等にこの学校を勧めたい）と思われませんか。（総合満足度） 肯定評価の割合 91.0%</li> <li>2) 登校・下校時指導や緊急メールなど、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思われませんか。 肯定評価の割合 89.0%</li> </ol> <p>○保護者の肯定的回答下位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げていると思われませんか。 肯定評価の割合 64.0%</li> <li>2) 育友会（大阪高校保護者と教職員の会）の活動に関心をお持ちですか。 肯定評価の割合 41.0%</li> </ol> <p>○教師の肯定的回答上位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本校は保護者や地域の要望・意見に対して誠実に対応していると思いますか。 肯定評価の割合 87.0%</li> <li>2) 本校は生徒の部活動に対して、クラブ顧問は熱心に指導していると思いますか。 肯定評価の割合 84.0%</li> </ol> <p>○教師の肯定的回答下位2項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本校は自分で立てた計画に登校・下校時指導や緊急メールなど、生徒の安全に対する学校の取り組みは十分だと思いませんか。 肯定評価の割合 56.0%</li> <li>2) 学校からの文書や懇談会・授業公開などを通じて、学校の様子は十分に伝わっていると思いますか。 肯定評価の割合 60.0%</li> </ol>	<p>第1回</p> <p>◇生徒が集まるのは、キメ細かさが要因の一つだと思われるが、今の大高教育にはそれが見受けられる。今年度掲げた2つのキーワード Study・Collaborateに見合った成果も生まれつつある。プレゼン発表やクエストなどグループワークの新しい取り組みも含め、学ぶことを座学の一方通行の知識伝達ではなく生徒と教師双方向の学びと捉えている点に良さが感じられる。</p> <p>◇このような活動を全体で共有することや「小回りが利くこと」「前例に縛られない」という単独校としての利点をどう活かしていくかが、今後の課題である。</p> <p>第2回</p> <p>◇今年度も文武両道で全国レベルでの活躍した大高生たちが、学校評価の期待値に届いてきた。学術・文化の部では今まで種を蒔いて育ててきた成果として花開いたものがあった。</p> <p>◇総合満足度について「入学させて良かった」は9割超だが2ポイント減少について、学習指導や学校の対応(クラス・担任)などに対する不満が見られる。総合満足度についてクラス間格差があり、今後は全体のポイントよりも満足度が低いクラスをどう見るかが大事である。</p> <p>◇クラブ活動満足度5%減について、部活指導は勝利至上ではなく、いろいろな生徒たちの力を伸ばすことに重きを置いている。今後どうすれば生徒は満足するかアプローチの仕方が大事である。</p>
<p>【分析】</p> <p>生徒の規律ある学校生活、保護者からの総合的満足度は昨年度同様高評価を維持している。しかし、学習指導と将来の目標設定の2点は、引き続き推進をしていく必要がある。</p>	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	(1) 多面的な学力の向上 ア 課題解決型プログラムクエストの導入 イ 模擬試験の成績向上  ウ 夏季学習合宿の充実  エ 夏期講座の充実  (2) 指導力の向上 ア 研究授業の実施  イ 研修会の充実	ア 2年生総合コース総合的学習の時間でクエストを実施 イ 希望者を対象に補講を実施  ウ タイムスケジュールの見直し 参加形態の見直し  エ 無学年制を基本とし、教師が教えた内容内容を提起  ア 教師が共に学ぶ場の設定  イ 高大接続改革への理解を深める	ア 全国大会への出場  イ 参加人数  ウ 参加者人数  エ パラエティーに富む講座の確保と参加生徒数の増加  ア 年間1回の開催  イ 学内の研修充実	ア 導入初年度1チームが全国大会出場  イ 1～3年 希望者を対象に補講を3回実施。  ウ 参加人数は微増 72→79 次年度はより内容の改善が必要。  エ 講座数昨年度より 72→79 参加希望生徒も 20%増加。  ア 研究授業を全科で実施。英語、国語、社会は外部からアドバイザーを招く。 イ 学内の研修は5回実施。全学教員研修として教育シンポジウムを実施。外部にも開放し、約300名が参加。
	2 問題解決力の育成	(1) 学校行事の充実   (2) 帰属意識の向上	ア 文化祭におけるクラス参加の継続  イ 文化祭における来場者の規制緩和  ウ 体育祭における学年ミックス参加の継続  ア 新入生歓迎会でのクラブ参加呼びかけ オープンスクールでの体験・見学  イ 担任⇒ブロック⇒学年での指導 保護者への密な連絡での指導  ウ 着こなし指導の継続実施  エ Q-Uアンケートを活用しての学級運営 予防的指導と早期問題解決に活用	ア 工夫度の向上  イ 来場者人数 1,600人  ウ 各応援団への参加 60人  ア 加入率 60%以上  イ 出席率 98%以上  ウ 年4回以上の着こなし週間設定  エ 学級満足群 50%以上
3 選択する力の育成		(1) 生涯学習の基盤づくり ・肯定的就労観の育成  ・安定した進路決定率の継続と進路実現支援の充実  ・主体的な学びの獲得と興味関心から探究学習に広げる取り組み  ・社会的・職業的に自立するための学習	ア 進路ガイダンス機会を各学年テーマ別に有効活用  イ 学年と校務分掌会議の改革と充実  ウ 読書レポート  エ 入学前教育の充実	ア 校内の人的資源と校外の人的資源の活用機会増加  イ 適切な進路情報提供による面談の充実度  ウ 確かな文章能力と語学力による社会で生き抜く基礎力の養成  エ 志望進学別課題